

2017年度

特別選抜Ⅲ アジア事情探究型（自己推薦入試）

適性検査

一 次の文章を読んで、後の問い（問1～6）に答えなさい。

中国の歴史を見ると、日本や西欧の様に領主が領民の面倒を見た封建時代は無かった。古代から現代まで、天下をとったものが自分の思うままに政治を行う中央集権的専制政治の繰り返しだったとみていい。異民族の支配もあり、戦乱に明け暮れたカオティックな永い歴史が、自分以外は信用しない、いわば不信がベースの社会を作り上げてしまったと思う。自分だけが頼りであり、Aと自利を第一とし、自己主張しないと生きて行けない。自分の面子を最も大切にし、それを生きがいにしてきている人もいる。

自分以外に頼れるのは、自分の親族と信頼する友人だ。中国人は、人を信頼するとことん信頼する。そうされると裏切れない。単純で徹底したガバナンスだ。人と人との関係、つまり人間関係が絆であり、社会の基盤である。

誰も面倒を見てくれないならば、自分を強くし、自分で生き抜いて行かなければならない。シラジたりともぼやつと出ない。したがって頭脳が鍛え上げられる。中国人は一般に頭が良く、複雑な知恵を持ち、冷静だ。現実を忘れず、日本人の様に一〇〇%感情に走ってしまうことはない。そんなことをしても飯が食えないからだ。

（中略）

冷静で居られるのは、自分を客観視できるからだ。何度も感じたが、中国人には二人の自分が居るように思う。一人は舞台上で演技をする自分、一人はそれを観客席から眺めている自分だ。

（中略）

中国での経験だが、人が人に相対する態度で卑屈な対応をしている場面に出会ったことがない。日本人はまず、社会的地位とか年齢とか、自分より上か下かを詮索して話を始めるが、中国人はそういうことに無頓着で話を始める。北京の社宅で雇

っていた中国人のお手伝いさんにも感心した。しっかりしたプライドもある人だったが、社宅に見えた白人の来客が彼女に話しかけると、英語が分からないのに物怖じせず、相手かまわず中国語で喋り返していた。

中国は異民族に何度も統治されているし、国民意識、国家意識はあるように見えて、強くない。むしろ一人一人の中に中華の世界があるという風に見える。だから誰に会っても物怖じしない。その意味で中国人の方が、日本人よりはるかに国際的だ。日本人は、日本という国を無意識なのだろうが、意識しすぎる。日本人は、We（我々）ではなくて、I（私）になって、いま少しふてぶてしくありたいものだ。

日本人も若い人は随分現実的になってきているが、まだ行動基準の原点は、「誠」だというふうを考える人が多い。偽りのない、素直で真面目な心であり、誠を尽くせばそれでいいと考える。これに対して中国人の行動基準の基底にあるものは結果が重要だという考えであり、従って「銭」、「報」、「面子」の三つが最も大切なもののように思える。

「銭」は「金儲け」だけでなく、ここでは自己中心主義という意味でも使っている。改革開放時代、前を向いて歩もうという意味で「向好看」というスローガンが使われたが、大衆はすぐにもじって「向銭看」という言い方をした。「前」も「銭」も発音は「チエン」で四声（中国語の発音アクセント）も一緒だ。つまり中国人の多くにとっては金銭が未来を切り開くものなのだ。現世利己的で、他利でなく自利、自己保全が行動の第一の基準だ。中国で起きた事象について分析するとき、このことを念頭に、誰がどういう動機でやっているか^{（心）}スインクすると、本音の事態が見えてくることが多い。

「報」とは厚意や労苦に対する償いであり、返礼を尽くすことだ。人間関係で最も信頼するのは家族や親族だが、次に友人。友人関係で、最も強い絆となるのは「報」だと思う。何度も経験したが、中国人は、困ったときに助けてくれた人は絶対に忘れず、一生恩に思う。したがって逆に考えれば、深い人間関係をつくるには、まずGive（与える）することである。Giveすると必ずTake（貰う）させてくれる。中国人は必ず報いをする。ビジネスで何倍もTakeさせてくれた経験が何度かある。

(中略)

次に「面子」だが、これは中国人にとって命のように大切なものだ。中国人に接するとき、あるいは交渉においても、常にこのことを念頭に置いておかなければならない。部下を叱る場合でも、一対一の場で論ず方がいい。皆の面前で非難してはならない。

日本人はよく、面子をつぶされたと言う。この場合の面子は、外からみて体面が汚されたという意味で、口には出すが当人は中国人ほど深刻にはとっていない。中国人は「面子」という言葉は自分から口にしない。しかし日本人よりはるかに深刻に面子を大事にしている。自分しか頼りにならない状況では、自分が自尊に満ちた存在だと思わないと生きて行けない。面子こそアイデンティティなのである。したがって、時には「事実」を否定してでも「形式」で自負を取り戻しているのだと思う。中国をよく理解している私の友人は、次のように言っている。「中国人は「面子」を重んじるが、一種の形式主義に他ならない。この形式主義は、中国には神が存在しないので、宗教の代替物^(d)と言える。「面子」は自己防衛の「盾」でもあり、自己を律する規範でもある」。

(中略)

中国では演劇が最大の国民的娯楽であったし、既に述べたように彼らは芝居が好きだ。たった数人の人前でも、大げさなせりふで演説調となる。喋るほうは得々として次第に事実からかけ離れた話になり、聞くほうも身を入れて話は話として聞く。

B

立派な演説をすれば芝居の役目は済むし、聞くほうも芝居だと知りながらハクシユ^(三)をする。芝居がうまく成し終えれば面子を保ったことになる。

私自身の体験で、台北の淡水ゴルフ場での場面を思い出す。四十年前ゴルフボールは高価だったので、林の中には何人かの男がボール目当てに立っていた。ボールが右に逸^(e)れて林の中でなくなった。近くにいた男が拾ったことは疑いない。しかし責

めるとガソコ(ホ)に否定する。「この辺に来たのは間違いないが、気がつきませんでしたか」という風に聞くと、一緒に探すふりをし、ポケットから密かにボールを落として、「このボールがあなたのもであろう」と言った。体面を保つために事実を否定する。(2) ポケットからボールを取り出すのを見て、これを責めてはいけない。中国人の演劇性と面子は深く結びついている。

(遠藤滋『中国人とアメリカ人』より)

問1 傍線部 (a) ～ (e) の漢字を平仮名にしなさい。

(配点 15点)

(a)

(b)

(c)

(d)

(e)

問2 波線部 (イ) ～ (ホ) の片仮名を漢字にしなさい。

(配点 10点)

(イ)

(ロ)

(ハ)

(ニ)

(ホ)

問3 傍線部 (1) 「中央集権的専制政治」とあるが、中国で最初に中央集権的専制政治を打ち立てた皇帝は誰か、答えなさい。

(配点 5点)

問4 空欄Aには、文中にある漢字四字の同じ語が入る。それは何か、空欄Aを補いなさい。

(配点 5点)

問5

空欄Bを補うのに最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

(配点5点)

- ① 往々にして問題は自分ではなくて相手になってしまう。
- ② 往々にして問題は事実ではなくて形式になってしまう。
- ③ 往々にして問題は娯楽ではなくて説教になってしまう。
- ④ 往々にして問題は役者ではなくて観客になってしまう。
- ⑤ 往々にして問題は台詞ではなくて演説になってしまう。



問6

傍線部(2)「ポケットからボールを取り出すのを見て、これを責めてはいけない。」とあるが、それはどうしてなのか。「面子」という言葉を用いずに百字以内でわかりやくす説明しなさい。

(配点10点)

80		30	
	60		10
90		40	
100		50	

二 次の文章を読んで、後の問い（問1～6）に答えなさい。

日本で中国人が感じる「快適」、「安心」、「安全」の基礎にあるのは人や物に対する「信頼」である。一昔前まで日本の方が中国よりあらゆる面で先進的でモダンだったが、最近の中国の都会の子供は日本に来て「中国の都会と同じくらい発展しているじゃないか」と感じるらしい。そのくらい、中国の大都市はすでに先進国並みに現代化しているが、それはハード面だけであってソフト面はまだまだ**脆弱**^(a)だ。このため中国ではつねに自分が損をしないよう警戒をしなければならない。日本に來ればそうした警戒は不要で、それがいかに良いことかということは無意識のうちにも感じ、それが日本に対する良いイメージにつながっている。人や物に対して誠実に対応すること、例えば、公正な価格で商品を売ること、トイレをキレイに使うこと、些細なことだがそうした

A

という互酬性の規範は中国ではまだまだ定着していない。

人々の行動の社会的合理性、その基盤である「信頼」は市民社会の成熟によってもたらされるものであるが、残念ながら中国では国家による社会管理の負の側面として、そうした市民社会の発展と「信頼」の**醸成**^(b)が阻害されている。

一九八九年にわずか八店しかなかった北京の日本料理店は、現在およそ三千店もある。日本に行ったことのある中国人が増え、日本料理の人氣が広まりここ三年くらいのあいだに一気に急増したという。外務省が行っている海外の青少年招へい事業「JENESYS」で、中国からも毎年十代～三十代の若者が数千人単位で日本を訪れている。来日前と来日後の日本に対する印象の変化を聞くと、「日本人は冷淡で堅苦しい人たちだと思っていたが、優しく親切だった」とか、「日本は暴力的で侵略的な性格があると思っていたが、中国と同じように平和を愛しているのだと知った」という対日イメージが良くなったという声がほとんどだった。

それが二〇一四年以降、少し様子が変わってきた。「日本についてもともと良いイメージを持っていたので、日本に来てみ

てそれが本当だと確信した」という感想が多くなった。それだけ、一般の中国人がこれまでもっていた日本についてのネガティブなイメージが薄れ、「日本は良い国」、「日本人は良い人たち」というポジティブなイメージが草の根レベルで浸透しつつあることがうかがえる。

二〇一五年にブームとなった日本への旅行だが、一過性のブームではどうも終わりそうにない。政府や旅行業界の関係者に聞くと、異口同音に、むしろ中国人の日本への旅行はまだ**緒**に就いたばかりであり、潜在的なニーズは膨大だという。一般的に旅行の三大要素は「観光」、「グルメ」、「ショッピング」といわれているが、観光地は一度見学すればそれで満足しやすく、リピーターを生むのは「グルメ」と「ショッピング」の魅力だとされる。

中国に行く日本の観光旅行者は一昔前に比べるとかなり減少しているが、中国の旅は歴史にまつわる観光地が目玉で、食や物の安全が不安視されているのが日本人の足が中国から遠のいている要因の一つではないだろうか。その点、日本は食文化の奥深さや地方ごとの多様性があり、ファッション性に富んできたり機能的で質が高い商品が日本にはあふれている。中国のそもそもの人口の多さによる旅行市場の大きさだけでなく、日本は中国人の食欲と物欲を刺激し海外旅行リピーターを生む条件もそろっており、今後も日本に来る中国人観光客は増え続けることが予想される。

中国政府が「反日」姿勢であるのに対し、**中国の国民の「親日」が加速する**¹⁾。これは中国政府にとってあまり面白くない現象だ。さらに日本での「爆買い」によって国内消費も削がれてしまう。中国政府による日本への観光旅行の規制も懸念^{c)}されるが、当面は大丈夫そうだ。李克強総理は十一月十一日に開かれた**國務院**常務委員の会議で海外からの日用品等の輸入に²⁾関し、規制しない方針を明らかにした。海外の製品の消費を規制しないことで、より消費者ニーズに合った商品開発や販売ができるよう国内の企業の競争力強化を促す狙いがあるようだ。

米国在住の中国人国際政治学者の王錚は著書『中国の歴史認識はどう作られたのか』の中で、中国では若い世代ほど愛国心

と反日感情が強いと指摘している。これまでの中国人の日本イメージは中国政府によってつくられたストーリーそのままだに形作られていた側面が強い。それだけに学んだことの影響を受けやすい若者世代を中心に日本の負のイメージの刷りこみが強い傾向があった。中国のことわざに「耳聴為虚、眼見為実」(耳で聞いたことはあてにならないが、目で見たものは確か)という言葉がある。より多くの中国人が日本を訪れて自分の眼で日本を見て感じることで、思い込みの日本のマイナス・イメージがどんどん薄れていくだろう。

(西本紫乃「中国人の日本観光旅行ブーム―「知日」からの親日とこれからの日中関係」より)

問1 傍線部(a)～(e)の漢字を平仮名にしなさい。

(配点15点)

(a)

(b)

(c)

(d)

(e)

問2 空欄Aを補うのに最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、その番号を左の解答欄に記入しなさい。

(配点5点)

- ① 顧客が誰であれ最善を尽くすことが要求される職業倫理
- ② 顧客の要望に事細かく耳を傾け常に向上と改善を怠らない
- ③ 他人への気配りがまわりまわって自分にも返ってくる
- ④ 他人への配慮を常に意識することに仕事のやりがいを感じる
- ⑤ 事細かなニーズを先取りして、おもてなしの精神を全力で発揮する

問3 傍線部(2)「国務院」とあるが、それは日本の政府組織では何に相当するとされるか。

(配点5点)

